



- ◆ 成功事例・参考事例を募集しています
→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- ◆ 質問・提案をお寄せください
→ advice@ppscamp.net
- ◆ 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします
→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
お問い合わせは→ toHSMR@ppscamp.net
- ◆ 参加登録病院用のバナーができました!

CONTENTS

- 1 フォーラム・セミナー等のご案内
- 2 DVD教材「医療機器の安全管理」ができました!
- 3 「輸液ポンプの基礎知識・応用力テスト」他を掲載しました!
- 4 教材ビデオがホームページからご覧になれます!
- 5 教材DVD「経鼻栄養チューブの挿入と管理」を共同行動参加登録病院にお送りします
- 6 パートナーシッププログラム(医療の質・安全学会)のご紹介
- 7 ひとことアドバイス(医療機器の安全な操作と管理:行動目標5)
- 8 日本臨床衛生検査技師会の活動紹介
- 9 共同行動支援セミナー in 大隅が開催されました

1 フォーラム・セミナー等のご案内

地域フォーラム

鹿児島フォーラム、開催決定

日程: 4月24日(土)

会場: 鹿児島大学 鶴陵会館

* 詳細は追ってお知らせいたします。

8目標に関連するセミナー、シンポジウム、講習会

医療安全全国共同行動支援セミナー in 沖縄(すべての目標に関連)

日時: 2月20日(土) 14:00~18:00 会場: 沖縄県医師会館(沖縄県南風原町)

主催: “医療安全全国共同行動支援セミナー in 沖縄” 実行委員会

* 詳細は http://kyodokodo.jp/doc/event/100220_2.pdf

第7回近畿臨床血栓性疾患研究会(目標2に関連)

日時: 2月20日(土) 14:00~16:30

会場: ビッグ・アイ(大阪府堺市) 国際障害者交流センター 研修室(大)

主催: 近畿臨床血栓性疾患研究会

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/100220.pdf>

医療安全全国共同行動支援セミナー in 宮城(目標5aに関連)

日時: 3月27日(土) 会場: 仙台国際センター「白樺1・2」

共催: 医療安全全国共同行動・東北大学病院医療安全推進室・テルモ株式会社

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/100327.pdf>

CPR講習会 ～ICLS・ACLS・BLS・PALS講習会（目標6に関連）

4月までの講習会をご案内しています。

* <http://kyodokodo.jp/doc/event/091225CPR.xls> をご覧ください。

弾性ストッキング・コンダクター講習会（目標2に関連）

* 3月20日の京都講習会は定員になったため、受付を終了いたしました。

〈富山地区〉

NEW! 日時: 7月10日(土) 13:00～16:00 (予定)
会場: 上市町文化研修センター(予定)

〈旭川地区〉

NEW! 日時: 10月16日(土) 午前中
会場: 旭川文化会館(予定)

〈東京地区〉

日時: 10月30日(土) 13:00～17:00
会場: 杏林大学 大学院講堂

主催: 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

<http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

2 DVD教材「医療機器の安全管理」ができました!

DVD教材「医療機器の安全管理」ができました。行動目標5「医療機器の安全な操作と管理」の対策の普及促進のために、自治医科大学の河野龍太郎教授がとくに力を込めて監修された力作です。院内教育にぜひご活用ください。

NDP医療安全教材シリーズ“医療が安全であるために” 第8巻 「医療機器の安全管理」(55分)

監修：河野龍太郎(自治医科大学医療安全学教授・メディカルシミュレーションセンター長)

「NDP医療安全教材シリーズ“医療が安全であるために”」(武田薬品提供)は、厚労科研費事業「医療のTQM実証プロジェクト(NDP)」の成果を普及させるために武田薬品の協力で制作されたビデオ教材シリーズです。これまでに、「①医療安全の基本的な考え方」「②事例に学ぶヒューマンエラー」「③危険予知の技法-KYTと5S-」「④病院における改善事例」「⑤転倒・転落対策(医療者用/患者用)」「⑥ヒューマンエラー対策」「⑦危険薬の誤投与防止」「⑧医療機器の安全管理」が作成されています。

* 詳細はホームページからご覧ください。

[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「8つの行動目標と推奨する対策」](#) → 支援ツール一覧 [「8目標共通TOOL BOX」](#) (登録してお入りください)

* 無料で貸し出されていますので、武田薬品のMRIにご依頼ください。

ご不明の点は shienjimu@kyodokodo.jp までお問い合わせください。

* NDPについては <http://ndpjapan.org/> をご参照ください。

3 「輸液ポンプの基礎知識・応用力テスト」他を掲載しました!

行動目標5a(輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作と管理)支援チームが、「輸液ポンプの基礎知識・応用力テスト」と「シリンジポンプの基礎知識・応用力テスト」を作成してくださ

いました。設問と解答をHPからご覧いただけます。ぜひご利用ください。

* [公開ページ](#)/[トップページ](#)/[メニュー](#) → [「8つの行動目標と推奨する対策」](#) → [「支援ツール一覧](#)/[行動目標5a](#)/[TOOL BOX](#)」 → 登録してお入りください

4 教材ビデオがホームページからご覧になれます!

行動目標別の教材ビデオがホームページからご覧になれます。

● 目標3a「経鼻栄養チューブの挿入と管理」

[公開ページ](#)/[トップページ](#)/[メニュー](#) → [「8つの行動目標と推奨する対策」](#) → [「支援ツール一覧](#)/[行動目標3a](#)/[TOOL BOX](#)」 → 登録してお入りください

● 目標8「転倒転落防止患者説明用ビデオ」

[公開ページ](#)/[トップページ](#)/[メニュー](#) → [「8つの行動目標と推奨する対策」](#) → [「支援ツール一覧](#)/[行動目標8](#)/[TOOL BOX](#)」 → 登録してお入りください

5 教材DVD「経鼻栄養チューブの挿入と管理」を共同行動参加登録病院にお送りします

上記の目標3a支援チームの制作による教材DVD「経鼻栄養チューブの挿入と管理」(シャワーアウト協賛)の無料配布について、前号でご案内しましたところ、入手希望が多かったため、共同行動に参加登録されている全病院にお送りすることといたしました。現在複製量産中ですので、2月末までに順次お届けいたします(DVD同封のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします)。

* まだ参加登録をされていない病院にもお送りします。

ご希望の病院は、「病院名、担当者の氏名と部署名、住所、連絡用メールアドレスと電話番号」を明記して shienjimu@kyodokodo.jp までお申込みください(DVD同封のアンケートにお答えいただくことを要件といたします)。

6 パートナーシッププログラム(医療の質・安全学会)のご紹介 ——目標8(患者・市民の医療参加)支援チームからのお知らせ

目標8支援チームでは、医療機関の皆さまが、その機関に合った形で患者の医療参加の取り組みを進めていただくことを期待し、取り組みの参考としていただくための情報を提供したいと考えています。そのような情報の一つとして、医療の質・安全学会パートナーシッププログラムのホームページ <http://qshpsp.giving.officelive.com/default.aspx> があります。

パートナーシッププログラムでは、2007年より「患者本位の医療をめざし患者・市民の医療参加を支えるさまざまな取り組み」の活動内容を登録していただいております。ホームページ上で活動紹介データベースとしてご覧いただけるようになっています。2009年からは、活動を視覚的にわかりやすく表現したポスターをWEB展示会として掲載しています。

さらに、これらの取り組みの中から、毎年、注目すべき活動を、学会から委嘱された10人の医療ジャーナリストによる選考委員会(選考委員長 大熊由紀子 国際医療福祉大学大学院)によって選考いただき、「新しい医療のかたち」賞として表彰させていただいております。

これらの活動の詳細を、パートナーシッププログラムのページからぜひご覧ください。

また、本年4月頃より活動登録とWEB展示会用ポスターの募集をする予定です（現在、登録システム調整中につき、準備が整いましたら募集を開始します）。今後、医療機関の皆さまの「患者・市民の医療参加」に関わる取り組みをたくさんご紹介していきたいと考えています。あらためてご案内しますので、ぜひ皆さまの活動をご紹介くださいますようお願いいたします。

7 ひとことアドバイス（医療機器の安全な操作と管理：行動目標5）

安全な医療機器を提供するために確実な日常点検の実施

●（社）日本臨床工学技士会 常務理事 安全対策委員長 本間 崇

行動目標5a「輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作と管理」

輸液ポンプ・シリンジポンプの事故発生過程をみると、輸液ポンプの設定・操作時の操作者の操作ミスが圧倒的に多く、確認不足や知識不足、失念がその要因となっています。次いで、ポンプと関連した周辺機器の回路（ルート）やシリンジの操作ミス、ポンプ使用中の観察管理が多くなっています。

安全な機器を提供するには、機器の定期点検と使用前点検を欠かすことはできません。また、輸液ポンプ・シリンジポンプは、薬剤を微量注入する際や、一定の注入量を保つ必要のある際に使用されることから、事故事例の多くに薬剤が介在しています。使用される薬剤は麻薬や鎮静剤、循環器薬剤などであり、それらの薬剤はポンプの操作に誤りがなく、正しく患者の血管内へ注入されないと危険薬となります。これらの予防には、使用中点検が重要であり、確実に実施することが求められます。

行動目標5b「人工呼吸器の安全な操作と管理」

人工呼吸器関連事例では、「回路」、「操作・設定」、「電源」、「呼吸器本体」で有害事象が発生しております。これら発生要因の多くは、人工呼吸器の保守管理の不備と使用時の操作・設定等の確認不十分によるものであります。したがって、人工呼吸器関連の有害事象（医療事故）を防ぐためには、人工呼吸器の「使用前・後」と「使用中」の保守管理とヒューマンエラー誘因事項の確認を的確に実施することが必要となります。人工呼吸器を安全に使用するために医療者（医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など）は、保守点検により機器の状態を正常に保つことが必須であります。また、使用中の安全確保のためには、医師が指示する設定条件と人工呼吸器の警報が正しく設定され動作していることを監視することや、人工呼吸器の警報以外のモニタとして生体情報モニタを併用することにより、異常に対して迅速に対処できることが重要であります。

8 日本臨床衛生検査技師会の活動紹介（パートナーズの活動／参加・協力団体）

日本臨床衛生検査技師会の活動

● 社団法人 日本臨床衛生検査技師会 専務理事
金子 健史

当会では厚生労働省が推進している「医療安全推進週間」の一環として、医療安全対策に関する臨床検査技師の意識向上をはかるため、平成13年度からこの事業に取り組んできています。

本年は、臨床検査をともし国民へ質の高い安全な医療を提供するために「医療安全学」を研鑽し、医療事故被害家族からのメッセージを受けて、医療安全対策の重要性を認識すると

ともに、当会が策定する医療安全管理指針による取り組みを明確にし、その実践を周知徹底することを目的とした「臨床検査安全管理者研修会」を開催しました。

平成22年1月22日、大森東急インにおいて開催した「平成21年度臨床検査安全管理者研修会」の内容は以下のとおりです。

「薬剤耐性菌による院内感染対策について」

国立感染症研究所 細菌第二部長 荒川宜親先生

「EPINET(日本版)の解析—臨床検査技師の針刺し・切創事故—」

(財)労働科学研究所教育・国際協力センター 副所長 吉川徹先生

「家族が事故にあった病院で働く決心—医療事故被害家族のお話—」

阪南中央病院 患者情報室 北田淳子先生

「採血業務に伴う安全管理」

慶應義塾大学附属病院 中央臨床検査部次長代理 柴田綾子先生

「インシデントレポートの現状と活用」

JA静岡厚生連・遠州病院 検査科技師長 伊藤喜章先生

「医療安全危険予知トレーニング(KYT)の薦め」

北里大学東病院 看護部長 花井恵子先生

荒川先生は、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌をはじめとする今後警戒すべき新型薬剤耐性菌を講義され、新情報修得の必要性を強調されました。

吉川先生は、血液媒介感染症の職業感染予防には、標準予防策の遵守と感染経路別予防策の実施が重要であり、その針刺し対策研究に大きな役割を果たしてきたサーベイランスシステム(EPINet)について話されました。

北田先生は、家族を医療事故で亡くされた経験を紹介され、現在その病院に働き患者や家族とどのように向き合っているかを話されました。

柴田先生は、JCCLSが標準採血法ガイドラインを策定した経緯を話され、針を刺すという侵襲を伴う「採血」は、技術を提供するというスペシャリストとしての自覚を持ち、採血に関する知識と技術の研鑽が必要と強調されました。

伊藤先生は、勤務される病院のインシデントレポートの詳細を紹介され、その活用法を示されました。ミスは人が生きている証拠であり、生きているからこそ努力し、その結果出たミスはさらなる勉強、すなわち成長につながるとされました。

今後も研鑽の機会を設け、医療安全への取り組みをよりいっそう深めていきたいと考えています。

9 共同行動支援セミナー in 大隅が開催されました

「医療安全全国共同行動支援セミナーin大隅」報告

幅広い職種の参加者から高い評価

● 県民健康プラザ鹿屋医療センター 副院長 原口 優清

平成22年1月16日、鹿児島県鹿屋市において「医療安全全国共同行動支援セミナーin大隅」を開催しました。

開催までの準備期間は1か月程でしたが、参加は医師8名、看護師118名、医療安全管理

者13名、医療機器安全管理者2名、薬剤師8名、事務7名、臨床工学士5名、理学療法士9名、検査技師6名、放射線技師4名の180名でした。幅広い職種の参加があり、大隅半島全域と薩摩半島や奄美大島からの参加もありました。

「共同行動の説明と8つの行動目標を実現するためのハウツーガイドの説明」を九州大学の秋好美代子先生にお願いし、医療安全全国共同行動の目標の説明や参加の呼びかけをしていただきました。講演では宮崎大学の甲斐由紀子先生に座長をしていただき、自治医科大学の河野龍太郎教授に行動目標7について、「事故要因分析から改善へ——ヒューマンエラー低減への基礎知識」と題して3時間にわたって熱く講演していただきました。通常1日を要する内容を凝縮して話していただきましたが、参加者は熱心に聴講していました。

アンケート結果では、①医療安全全国共同行動について:「このような活動があることをはじめて知りました」「単独の病院でなく、より多くの施設で共同行動をとることで問題を共有化し対策を効率的に活用できることがわかりました」「理念やツールを共有して、より効果的で安全な取り組みができることがわかりました」、②講演に関して:「事例紹介しながらパワーある話はすぐ理解しやすく最後まで集注して聴講できた」「要因分析の具体的方法を知ることができた。もっと時間があつたら実際にやってみたかった」「今後ともこのようなセミナーを開催してほしい」等の意見がみられました。

以上、今回のセミナーは聴講した多くの参加者に大変よい評価をもらいました。鹿児島の大隅半島という遠方の地域で河野龍太郎教授に講演していただき、セミナーを開催できましたこと感謝しております。ひとえに河野教授のご厚意によるものが大きいのですが、セミナーを開催して、私たちの地域でも医療安全に関する意識が高い方々がいることがわかりました。このセミナーを機会に全国の病院との連携とともに地域での医療連携を進めたいとの意識が芽生えたものと思います。



共同行動キャンペーンポスターをご利用ください (HPからダウンロードできます)

- 医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”(日本版100K)
- 行動目標別キャンペーンポスター完成見本(目標1～目標8)
 - 公開ページ…[トップページ](#)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)
- 行動目標別キャンペーンポスター基本デザイン(目標1～目標8)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)

★ウェブマガジンWhat's on, Kyodokodoは毎月第2・第4金曜日に配信します
院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室

〒102-0082 東京都千代田区一番町13-8 一番町KKビル3階 社団法人日本病院会内
TEL. 03-6380-9370 FAX. 03-6380-9371
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>